



南東側外観

## 設計主旨

### 一 病院の特徴と移転の経緯

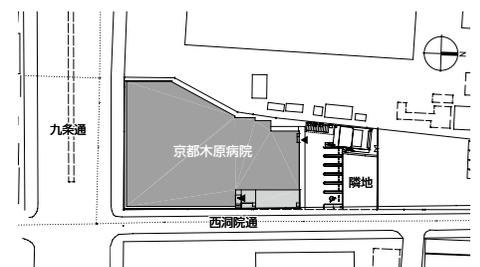
医療法人社団 親和会 京都木原病院は、頸椎疾患に対する治療に特化した病院であり、日本はもとより世界からも患者が訪れる医療機関である。2013年に京都東寺の近くに既存病院を改装する形で開業され、10周年を節目に現在の敷地に新築移転を計画し設計を進めた。旧病院は手狭であったことから、新病院では、患者やスタッフにとって、より

良い環境を創出するとともに、病院の理念の実現が求められた。

### 一 新病院の特徴

この病院でしかできない医療を頼っている患者に、短くも充実した入院生活を送ってもらえるよう、京都と言う土地の性格から導かれる和を感じ取れる空間を意識した。機能としては、手術に特化した病院であることから、手術室フロアの充実と、手術後のストレッチャー・ベッド移動を円滑にする通路幅

をはじめ、スタッフが働きやすい環境が求められた。



配置図 縮尺 1/2,000



九条通り側外観



西洞院通り側低層部夜景



左上/1階ホール 右上/4階スタッフ休憩・食堂 左下/手術室 中下・右下/サーカディアンリズムに配慮した病棟廊下(左:昼 右:夕方)

### — 全室個室で多様な病床

2～3階は病床フロアとなっている。47病床すべてを個室とし、多様な患者がいらっやることから、病室も様々なタイプを用意している。効率的な構造スパンを導き出す作業から始まり設備の納まり等、設計・施工を通して知恵を絞った。また、入院される患者ごとに、プライバシー・セキュリティの段階を上げられるように、各フロア・エリアごとにレベルを分けた。

### — 充実した手術環境とスタッフエリア

4階は手術フロアとし、大学病院並みの手術室と洗浄・中央材料室の設えとしている。年間600件を超える手術を行うこともあり、手術室フロアと病床フロアの動線計画には気を配った。術後一晩は特に安静にしなければならぬ術式であることから、リカバリールームには特段の配慮を行った。

理事長の強い思いからスタッフエリアの充実も目を見張るものがある。特に4階休憩室は、カフェと見紛うほどのインテリアに仕上げた。

### — 病院を特徴づける書とアート

京都木原病院のロゴデザインは書家の金澤翔子氏が揮毫された。要所に配置された直筆の書は設計段階からサイズや額の色までもインテリアとの調和を意識して進められた。結果、患者の心を強く捉え、苦しみを伴う入院生活を癒すエッセンスとなっている。それ以外にも、陶芸や、理事長が患者からいただいたアートの数々が各所飾られ、暗くなりがちな病院内の癒やしとなっている。

### — サーカディアンリズムに配慮した照明計画

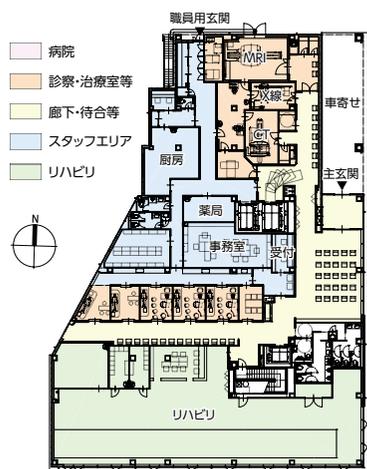
サーカディアンリズムとは人間が本来備える24時間周期の生態リズムのことである。本病院では、病床の共用エリアの照明をタイムスケジュールにより照度と色温度を変え、患

者により健康になっていただこうと取り入れた。夜の消灯時間に合わせた照度の調整は看護師の業務の軽減に寄与している。

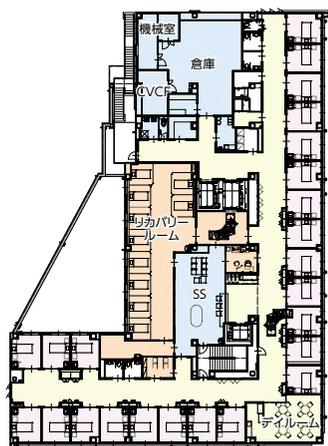
本システムはENDO照明の協力により実現した。— まとめ

ここでしかできない治療を求め、世界中から患者が訪れる本病院の設計にあたっては、機能とデザインの両立が強く求められた。九条通に面するファサードデザインや京都駅から至るエントランスや内部空間の隅々まで、病院らしからぬデザインを設えている。年間600件を超える手術件数は民間の病院では突出している。その施術を円滑に行う病院内の設備と病室も含めた動線は熟考に熟考を重ねた。すべては、理事長、全スタッフの強い思いを現実のものとするための器づくりとなった。

(水上 諭/走坂建築設計事務所)



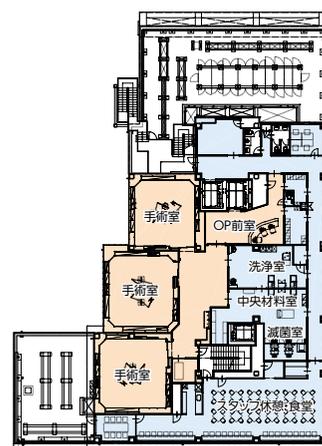
1階平面図 縮尺1/800



2階平面図



3階平面図



4階平面図

## 施工計画

本プロジェクトは、京都市南区にある京都木原病院の新築・移転工事である。移転時期は2024年3月15日と決まっており、2023年2月1日の杭工事着手より12カ月の工程となっていた。

敷地周辺状況として、南面に幹線道路（九条通）、東面に一方通行路（西洞院通）、西面は接道なし（解体工事中）となっていた。短期間の工事において、資材の搬出入・作業動線の確保を念頭に施工計画を立てることとした。

まず、基礎工事（GL1.8m全面ピット形状）を進

めるにあたり、乗入構台を鉄筋、型枠、コンクリート工事、さらに鉄骨工事まで利用できるように計画した。車両の搬出入においては、近隣通行の妨げにならないよう、出入口を交差点より離して設置した。

躯体工事完了後の10月より、外壁・内部工事に着手した。内外装、設備・電気材料の搬入において各階がセットバックしている建物形状を利用して、搬入口とした。また、資材の揚重計画において、BIM等利用することで、立体・時間的に輻輳を把握し、大量の資材を搬入することができた。

作業所内においては、常に整理整頓を行い、不要材の搬出を心掛けたことにより、後戻りを極力なくし工事を進めたが、内装工事終盤より資材搬入量が限界を越え、時間・作業場所などが計画通りに進まない場面もあった。

最終的には関係各所の検査後、医療機器・ベッドなどを搬入、リハーサルを終え、無事に3月15日開院を迎えられた。今回工事に携わった多くの関係者のご協力により竣工を迎えた本病院が、ますます発展していくことを心から願っている。

（江原 進／松井建設）



鉄骨組立状況



BIMによる検討（鉄骨組立）



BIMによる検討（外壁組立）



江原 進……えはら すずむ

1972年生まれ。1995年東京工芸大学工学部建築学科卒業、1999年松井建設入社。作業所長として当工事に従事、現在に至る



水上 諭……みずかみ さとし

1969年福井県生まれ。1992年福井工業大学工学部建築土木学科卒業。1993年走坂建築設計事務所入社。現在、同社取締役次長



三中 一樹……みなか かずき

1988年生まれ。2010年福井工業大学工学部建築土木学科卒業。2015年走坂建築設計事務所入社



柵家 遼太郎……ますかりょうたろう

1995年生まれ。2018年福井工業大学工学部デザイン学科卒業、同年走坂建築設計事務所入社

医療法人社団 親和会 京都木原病院 データ

所在地 京都市南区西九条春日町5-1

主要用途 病院

建築主 医療法人社団 親和会

設計・監理 走坂建築設計事務所

担当／総括：水上 諭

建築：水上 諭、三中一樹、柵家遼太郎

構造：坪田秋月

施工 松井建設

担当／江原 進、松野天頼、徳永光星

設計期間 2022年3月～2022年12月

工事期間 2023年2月～2024年3月

【建築概要】

敷地面積 1,723.90㎡

建築面積 1,312.08㎡

延床面積 5,058.30㎡

建ぺい率 76.12%（許容80+10%）

容積率 283.80%（許容600%）

構造規模 S造 地上6階、塔屋1階

最高高さ 24.950m

軒高 22.955m

駐車台数 6台+敷地外4台= 10台

地域地区 商業地域

【病棟概要】

診療科目 全3科（整形外科、脳神経外科、麻酔科）

病床数 47床（1床47室）

1床当延床面積 106.28㎡

病棟基準階面積 1,081.81㎡（2階）

1床当病棟基準階面積 45.04㎡（2・3階）

【設備概要】

電気設備 受電方式／屋外キュービクル型受変電設備 3φ3W 6.6KV 60Hz 変圧器容量／1,200kVA 予備電源／ディーゼル式非常用発電機 420kVA

空調設備 空調方式／外調機＋空冷HPビルマルチ方式（EHP） 熱源／電気

衛生設備 給水／上水：受水槽＋加圧給水ポンプ方式 給湯／中央方式：ガス瞬間式給湯機（循環式） 排水／汚水・雑排水合流式

防災設備 消火／スプリンクラー消火設備、消火器 排煙／排煙窓による自然排煙 その他／自動火災報知設備、非常用放送設備、非常用照明設備、誘導灯設備

昇降機 寝台用（11人乗）×1基、寝台用（15人乗）×1基、乗用（13人乗）×1基

特殊設備 ナースコール設備、医療ガス設備

撮影／岡田大次郎



左上／3階テラス付き病室 右上／6階研修室 左下／6階応接室 右下／1階リハビリ室

協力会社  
（当社記入欄）